

## 平成27年度 学校評価

### 1 学校運営の目標・方針

- 「自律」「協同」「創造」の精神を培い、将来に挑戦し、社会に貢献できること豊かで自立した人材を育成する。
- 学ぶ楽しさと学び続ける意欲・能力を育成する。
- 基礎・基本を確実に定着させ、「生きる力」を育む。
- 生命を尊重する心、他を思いやる心など、人間として調和のとれた人格形成を目指す。

### 2 本年度の重点目標

- 生徒、教職員が一致協力して、校訓「自律」「協同」「創造」の具現化を図り、活力ある校風作りを目指す。
- 「産業社会と人間」や進路ガイダンスを通じて、望ましい勤労観、職業観を育成するとともに、主体的に進路決定する能力を育てる。
- 保護者や地域社会との連携を図り、開かれた学校をつくる。
- 命と人権を大切にし、共に生きる心を育てる教育を推進し、生徒が自らの在り方や生き方を考え、積極的に行動できるようにする。
- 全教職員が資質向上に努め、協力して取り組む体制を作る。

### 4 総合的な学校関係者評価

- 学校を楽しんでいる生徒が多いことがうかがえる。気持ち良い挨拶のできる生徒が多いが良い。
- 総合学科として、プレゼンテーション能力を伸ばしている。これは社会へ出た時に大いに役に立つ。
- 「学力向上」や「進路実現」が今後の課題である。学校ががんばって取り組んでいることを、数値的な結果や、生徒の実感につなげられるよう見直す必要がある。
- アクティブ・ラーニングに学校を挙げて取り組んでいる。これを是非「学力向上」につなげてほしい。
- 昨年度よりよくなっている点が多い。
- 「たてじまアートプロジェクト」や「えびすかき」のように、地域に関係する教育・活動を広げていってほしい。

#### 【生徒・保護者・教員】

- A: 5.0～4.2
- B: 4.1～3.3
- C: 3.2～2.4
- D: 2.3～0

#### 【総合評価】

- A: 5.0～4.0
- B: 3.9～3.5
- C: 3.4～3.0
- D: 2.9～0

### 3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

観点	No.	質問項目	生徒評価		保護者評価		教員評価		総合評価	担当	評価	改善策など	学校評議員からの意見
学校生活	1	本校の校訓を知っている。	4.2	A	3.8	B			A	総務	○生徒・保護者とも前年より0.1～0.2ポイント増加している。概ね周知・理解されているといえる。	○始業式や終業式、HR・年次通信等で校訓に触れる機会を増やす。特に、来年度は40周年であり、様々な機会を通して、生徒が学校への愛着や誇りを持てるようにする。	○生徒以上に、家から送り出す保護者の目には子どもが楽しんで学校へ行くように映っていて、その安堵感が出ている。
	2	学校に来るのが楽しい。	3.7	B	4.1	B			B	年次	○保護者の評価が前年より0.1ポイント下がってはいるが、生徒は概ね学校に来ることを楽しんでいると言える。 ○評価がAランクになるくらい、学校を楽しめるようにさせたい。	○授業・部活における取組を改善させ、さらに学校生活を充実させる必要がある。 ○共同体感覚の増大に務め、自己有用感を高められる活動に努める。 ○学びは楽しいことばかりではない。苦しいことがあるから楽しいものが見つかる、「楽しくるしいもの」と理解してもらうため、2月9日に講師をお招きし、1年次を対象に講演を予定している。	
	3	学校での出来事を家庭でよく話をする。	3.6	B	3.8	B			B	年次	○前年とあまり変わっていない。 ○この年頃は親とあまり話をしなくなる年代である。特に男子の方があまり話をしていない傾向がある。	○学校通信を学期に2回程度、年次通信は毎月1回、行事月は2回発行するなどして、学校の様子を伝えるようにしている。 ○HPでも、できるだけ学校の情報を提供するようになっている。ただし何もかもHPに頼りすぎると、かえって生徒がそれをあてにしてしまうので、HPに載せる記事は選別している。	
	4	年次通信、PTA広報誌など学校からの配布物を保護者に渡している。	3.5	B	3.8	B	4.0	B	B	年次	○学校通信や年次通信、その他各種案内等をこまめに配ってはいるが、それらがきちんと届いていないご家庭があるのが残念である。その傾向は、前年とあまり変わっていない。	○HPを活用し、通信や案内を配付したことを周知させる。 ○年次通信は保護者向けにも書いているので、家庭でも子どもへの催促をお願いしたい。	

観点	No.	質問項目	生徒評価		保護者評価		教員評価		総合評価	担当	評価	改善策など	学校評議員からの意見
教科指導	5	学校はわかりやすい授業を行っており、基礎学力が定着してきた。	3.3	B	3.3	B	3.9	B	B	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度授業などを取り入れて、工夫して行っているが、生徒や保護者からの評価が低い。</li> <li>○アクティブラーニングの試みなど、授業改善に向けて学校を上げて取り組もうとしているところだが、その成果が十分に出ているとは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度授業において、なかなか定着しない場合はさらに丁寧に指導する必要がある。また、余裕のある生徒には、もっと高いレベルの授業を提供することも重要である。</li> <li>○毎授業の学力定着の点検・振り返りを行う。</li> <li>○自分の担当する教科がいかに関心深いかを語る教員を増やす。</li> <li>○現在、自発的な「授業研究会」が立ち上げ、アクティブラーニングの先進校の取り組みを学ぼうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6番「家庭学習時間の確保」・8番「講習・補習・個別指導」は、生徒や保護者の評価と先生の評価とにギャップがある。先生方はやっているつもりだが、生徒や保護者はあまりできていないと評価している。こうしたあたりが学力向上に向けて学校を変えていくとつかかりになるのではないかと。</li> </ul>
	6	家庭学習の時間を2時間以上確保できている。	2.9	C	2.9	C	3.9	B	C	教務 年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習の習慣がついていない生徒が多いことは、前年度に引き続き本校の大きな課題のひとつである。</li> <li>○課題が家で出来ないで提出日に欠席するようなメンタル面の弱い生徒が少なからずいる。一方で課題考査、小テスト、模試、定期考査、課題等を意識して取り組んでいる生徒が過半数以上を占めている。</li> <li>○(6)の質問の評価が低い割に、(7)の評価が高い。やらねばならないと頭では分かっているし、実行できていないことも自覚している。自分に甘いとも言えるが、そのジレンマを打開してやることで、本校の課題の打開策にもなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎づくりの1年次では、週間学習計画と振り返り評価表を毎週末に担任がチェックしている。週3回の数学、英単語、漢字小テストの実施で学習習慣の定着を図っている。これ以上に何が出来るかを検討中。</li> <li>○中堅の2年次においても、勉強の仕方など基本的な指導の必要性を感じている。</li> <li>○卒業を前にした3年次の3年間を振り返り、進路学習の在り方について再検討をする。その成果を、次年度に反映させるよう、情報の共有化を図る。</li> <li>○家庭学習の課題などを量的に増やすことも検討するとともに、生徒が自ら学ぶ意識を育てる方策を検討する。「探究型学習」をいかに「学力」に結びつけるかを研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○8番「講習・補習・個別指導」・9番「部活動と家庭学習の両立」では、生徒の評価よりも0.2ポイントずつ保護者の方が高い。親が思っているほどには生徒は勉強していないのではないかと。</li> <li>○5番「分かりやすい授業・基礎学力の定着」、6番「家庭学習時間の確保」、7番「学習意欲の向上」、8番「講習・補習・個別指導」など学力に関わる部分だが、先生の評価ほど生徒や保護者がの評価が高くないのが気になる。</li> <li>○西宮今津高校の実践しているアクティブラーニングを「学力向上」に結びつけるのが今後の課題だ。</li> </ul>
	7	学習意欲は高く持っている。	3.3	B	3.3	B							
	8	講習・補習・個別指導などを積極的に受けている。	3.0	C	3.2	C	4.2	A	C	教務 年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に受ける生徒の数は多いとは言えない。</li> <li>○教員評価と生徒及び保護者の評価の乖離が大きい。</li> <li>○補習を行う時間帯や日程により、参加しにくい生徒がいるのかもしれない。</li> <li>○平常の補習などを、今年度は前年度以上に積極的に行った。しかし教員の評価は0.1ポイント下がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当者より個別に声をかけて人数を増やしていく。</li> <li>○補習について、HPをも活用しながら、保護者への周知をもっと早く、念入りに行う。</li> <li>○部活動との両立を考えていく必要がある。そのために、全職員の共通認識を再確認する。</li> <li>○ドリル等を用いて、短時間でも行えるような教材を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○勉強するように言ってもらえるのは高校まで。先生たちは生徒に頑張るよう励ましてくれている。そうやって学校の方で声を掛けて生徒の心に火を点けてほしい。</li> <li>○部活動が盛んで、正門から見ると近畿大会や全国大会の横断幕がパッと目に入る。ああいうのを見てここに入りたいと思う中学生もいるのではないかと。そういうところももっとアピールしていけばよい。</li> </ul>
	9	部活動と家庭学習の両立ができている。	3.2	C	3.4	B	3.6	B	C	生指 年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員と生徒の評価の差が大きい。</li> <li>○家庭学習の習慣化がなされていない。</li> <li>○部活、学習以外にスマホゲームなどで時間をとられて両立できない生徒がいる。</li> <li>○下校時刻は、各部とも遵守しているの、学習時間は確保されているはず。部活ばかりが家庭学習できない原因とは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動においても、練習時間等を生徒に決めさせるような自主的な活動を試みる。</li> <li>○部活動において、学力が下がれば練習時間を減らすこともひとつの案である。</li> <li>○部活動単位での学習指導も検討していく。</li> <li>○ドリル等を用いて、短時間でも行えるような教材を工夫する。</li> <li>○短時間で息を抜きつつ自分に役立つ余暇の過ごし方の典型例を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活を熱心に行っている分、学習時間を確保できないということはないのか？が気になる。</li> <li>○授業改善に向けて学校を挙げての取り組みに期待する。</li> </ul>

観点	No.	質問項目	生徒評価		保護者評価		教員評価		総合評価	担当	評価	改善策など	学校評議員からの意見
進路指導	10	多様な選択科目の中から自分の進路・適性に合ったものが選択できている。	3.9	B	4.0	B	4.0	B	A	教務	○選択の幅は多く、三者面談などを通じて、丁寧な指導ができていると思われる。 ○2年次以降で進路希望が大きく変わった時が課題。	○消極的選択(試験がなく楽)という選択にならないように1年次の夏までの取り組みが重要。 ○講師時間の関係で、すべての科目を開講するのがなかなか難しい。見直しなどをして、より良い選択の幅が増えるようにしたい。	○家庭学習時間と成績が比例するかというと、そうでもない。休みもなく毎日部活動の練習をしている生徒が、授業中に集中して勉強することで有名大学に進学した例はいくつもある。だがこれは、小学校時代からの積み上げがないとむずかしいかもしれない。  ○高校から大きく成績を伸ばそうと思えば、やはりある程度の時間が必要。総合学科の取り組みで、人間としては幅広くいい学びをしている。あとは学力の為の訓練とのバランスが必要になってくる。いろいろと頑張っている割には数字としての結果が出ないところを、先生方は厳しく見ていかねばならない。
	11	進路に関する適切な情報が提供されている。	3.6	B	3.5	B	4.0	B	B	進路	○情報過多の中で情報の有効活用力(リテラシー)が今後の課題である。 ○情報過多とは裏腹に、肝心の確かな情報が不足している感がある。	○情報の取捨選択と得た情報を行動に結びつける練習が必要。「探究型学習」の中で、本当に必要な情報を見つける能力を身につけさせる。 ○少人数で大学や専門分野を体験できるようなミニ企画に食いつく生徒は多い。そうした取り組みや仕掛けが必要。	
	12	模擬試験等を継続的に受け、事後の学習に生かしている。	3.2	C	3.2	C	4.1	B	B	進路年次	○模試の事前HRや事後の振り返りHRや集会を必ず入れているのだが、生徒に浸透できていない。 ○分野別の習熟度分析をする力をつけさせられていない。 ○自由受験の模試や検定の受験者数が少ない。	○模試は、自分の弱点の克服がテーマだと、1年次のうちから言い聞かせる。 ○模試の振り返りが自分でできるように1年次のうちからしつける。 ○家庭学習習慣を定着させ、自学自習の手法を身につけさせることがやはり大事である。 ○3年次の3月まで全員で頑張りぬくというのを、早い段階からことあるごとに言い続ける。	
	13	進路校外学習などを通して、職業観・勤労観が身に付いた。	3.7	B	3.6	B	4.2	A	B	推進	○職業人インタビューが職業観、勤労観を育てている。 ○総合学科としては、さらに高い評価が得られるよう校外学習を充実したものにする必要がある。	○職業観・勤労観形成の基礎力となる学びの力が「探究学習」であることを周知する。 ○校外学習とそのための事前事後指導をさらに充実させ、意識付けの工夫をしていく必要がある。校外学習の訪問先の設定や企業、大学との連携を深めていくことも大切である。 ○インターンシップを、就職希望者を中心に早い段階から実施する。	
	14	「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」など生き方について考える機会が多い。	3.8	B	3.6	B	3.9	B	B	推進	○「何を学び続けたいか」という動機をおこすことに役立っている。けれども前段となる「学ぶことが楽しい」に至っていない生徒も多い。 ○総合学科としては、さらに高い評価が得られるようキャリア教育を充実させる必要がある。	○「どう生きるのか」という問いは高校生には漠然としているので、「なぜ学ぶのか」「どのような働き方をするのか」という、高校生の身の丈に合った問いかけをしていく。 ○「産業社会と人間」では職業観・勤労観を高める授業計画が展開されているが、「総合学習」においてもキャリア教育に関連付けて授業計画を考えていく。	

観点	No.	質問項目	生徒評価		保護者評価		教員評価		総合評価	担当	評価	改善策など	学校評議員からの意見
生徒の自主性	15	「総合学習」や「課題研究」を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。	3.6	B	3.5	B	3.9	B	B	推進	○生徒、保護者の評価は決して高くはないが、着実に力をつけてきていると考える。 ○教員の評価が前年度より下がっているのは、生徒自身の自主的な取り組みという点への物足りなさにある。	○生徒のモチベーションに火をつけ、適切な指導で伸ばすという、教員側の2段階のスキルアップが必要である。 ○小さなことからでも、生徒に課題解決の成功体験を積み重ねさせるプログラムを用意する。	○1月の総合学科発表会を見て、高校生がステージの上で立派に発表している姿が素晴らしかった。もちろん先生方のご指導あつてのことだろうが、こうしたコミュニケーション能力を高校時代から育てようとしているのは大事なことだ。これから社会へ出た時に大いに役立つだろう。
	16	生徒会活動やホームルーム活動では主体的に活動している。	3.3	B	3.4	B	3.8	B	B	生指	○概ね良好であるが、選挙権年齢が下がったこともあり、民主主義の仕組みを学ばせる場としていく必要がある。	○議案の周知と議論、決定のプロセス運営といった、民主的な方法を学ばせる。 ○生徒会役員など、リーダーの養成をはかる。	○総合学科発表会を見ていると、高校になるとこんなことができるようになるのかと驚いた。西宮今津高校のこういうところを中学生やその保護者にもっと伝えていくとよい。
	17	文化祭や体育大会等の行事に積極的に取り組んでいる。	3.8	B	4.0	B			B	生指	○限られた準備期間の中で、積極的に取り組もうと努力している。 ○2, 3年次は、文化祭において演劇に積極的に取り組む。 ○体育大会のフォークダンスは、本校の名物伝統種目となっていて、生徒もとても楽しみにしている。	○特に1年次は、準備段階で周到に働きかけておくなど、事前の指導上の仕掛けが必要。 ○生徒会のリーダーシップの向上をはかる。	○選挙権年齢が下がったことで、民主主義の仕組みを学ばせる場が必要になる。
生活習慣	18	集会などを通して、学校や学年の生徒指導方針がよく説明されている。	3.6	B	3.5	B	4.0	B	B	生指	○特に1年次には、入学直後のオリエンテーションで徹底して実施している。 ○自転車運転マナー等については、例年以上に全校集会を開催し、徹底をはかった。しかし苦情はなかなか絶えることがないのが現状である。	○年度当初に、新入生対象で交通安全指導を企画中。	○17番「学校行事への取り組み」を見ると、生徒自身よりも、保護者の目から見た方が、生徒が楽しんでいるように映るのである。
	19	挨拶・時間厳守・携帯電話の使い方などの基本的な生活習慣が身に付いている。	3.9	B	3.7	B	4.1	B	B	生指	○集会などの集合は、迅速に行動できる。 ○携帯電話の指導は、それほど多くない。挨拶については、にこやかに会釈を返せる生徒が多い。 ○遅刻者やネクタイ忘れなどが微増傾向である。	○日常的な場面でのルール共有の当たり前化を、身体感覚で染みつける段階にある。 ○本校で「リフレ」と呼ばれる遅刻指導などをさらに徹底させるとともに、そうした機会に生徒とのコミュニケーションを増やしていく。	○自転車マナーのことがずっと問題になっているが、これは家庭の問題でもある。
人権	20	保健室・教育相談室など、悩み事を相談できる体制が整っている。または、親身になって相談に乗ってくれる先生がいる。	3.6	B	3.6	B	4.2	A	B	保健	○全生徒・保護者・全職員に向けて何度も案内し、またひとりひとりに学年・顧問などから声かけを行っている。また、保健室からも気になる生徒に声かけをし、教育相談につなげている。 ○キャンパスカウンセラーの先生が、生徒だけでなく教員に対しても適切にアドバイスをくださり、とても助かっている。	○校内のカウンセリングはよく機能している。 ○保護者との連絡をさらに密にとる。教職員間も、より一層きめ細かく連携を図る。	
	21	いじめのない学校づくりが進められている。	3.8	B	3.8	B	4.1	B	B	生指	○年次団を中心に、全職員で連携を図り、細かく進めている。 ○学期ごとに「いじめアンケート」を実施するようになり、早期発見できる可能性が高まった。	○いじめ対策委員会の定期的な調査を役立て、生徒への聞き取りを丁寧に行っている。 ○いじめ早期発見のためのチェックリスト・対応の原則を教職員に配布した。	○21番「いじめのない学校づくり」の評価がBということは、高校になってもいじめはあるのかなと思う。しかし先生の評価は4.1と高いので、しっかり取り組んでくれているのだと思う。
	22	色々な授業や行事を通じて、命と人権を大切に教育が行われている。	3.9	B	3.7	B	3.9	B	B	人権	○前期・後期それぞれの人権学習テーマを設定し、「人権映画鑑賞会」「講演会」を開催している。 ○各行事と連携し、テーマをより深めるためにLHRを持ち人権学習に取り組んでいる。 ○保健や現代社会、国語などの教科や「産業社会と人間」「総合的な学習」において、人権と命を大切に教育する視点をもった授業を行っている。	○生徒の呼び方や教師の語りの中にも表面化する、人を軽く扱う発言などに注意が必要である。 ○授業、部活動など、学校生活において人権に対する鋭敏な感覚を常に持つとともに、年間人権学習においても、生徒自身の問題としてより深めていくことができるようなテーマの設定や学習内容を考えていく。	